

2022/10/06 くろしおオンラインセミナー
学習者の視点で日本語をとらえ直してみよう —
『超基礎・日本語教育のための日本語学』を使って

第15章

ことばと社会(2)

日本語のバリエーション

一橋大学国際教育交流センター

柳田直美

このセクションの流れ

- ① 実践の概要
- ② タスクを体験してみよう
- ③ 第15章の概要とコンセプト
- ④ 本書からのメッセージ

実践の概要

- 大学での集中講義
- 2日間8コマ
- 20代から70代の約20名
- 「日本語教師のための日本語学入門」
- 日本語教師, 日本語教師を目指す方, 日本語に興味がある方



どんな状況？誰が誰に？

- ①これ、うまいぜ。食ってみろよ。
- ②これ、おいしいわよ。召し上がってみて。
- ③これ、ふつうにおいしいんだけど。食べてみてよ。
- ④こいはうんまかど。たもっみやんせ。
- ⑤これはおいしいですよ。食べてみませんか。



第15章の概要とコンセプト

1. 日本語にも種類がある？
2. ことばの男女差、世代差
3. ことばの地域差
4. 相手によって話し方を変える
5. まとめ

1. 日本語にも種類がある？

- ①これ、うまいぜ。食ってみろよ。
- ②これ、おいしいわよ。召し上がってみて。
- ③これ、ふつうにおいしいんだけど。食べてみてよ。
- ④こいはうんまかど。たもっみやんせ。
- ⑤これはおいしいですよ。食べてみませんか。

身近な日本語のバリエーションに対する意識化

2. ことばの男女差、世代差

①これ、うまいぜ。食ってみろよ。

ことばの男女差

②これ、おいしいわよ。召し上がってみて。

③これ、ふつうにおいしいんだけど。食べてみてよ。

ことばの世代差

社会方言：社会的属性によることばのバリエーション

2. ことばの男女差、世代差

特徴	例
終助詞	女：わ、かしら、て、てよ、こと、の、のよ、わよ、よ、たら 男：い、ぜ、な、よ、ぞ、さ、かい、だい
呼称	女：わたし、あたし、あたい、あなた、あんた 男：ぼく、おれ、おいら、わし、きみ、おまえ、てめえ
音変化	女：すごーい、～ちゃった 男：すげー

その他：
イントネーション
語彙
文法
敬語
ジェスチャー

など

ことばの男女差



ことばの中性化

ことばの世代差

2. ことばの男女差、世代差

ことばの世代差

友人：えっ、もう別れたの？

あなた：うん、あんな_____、最低！

3. ことばの地域差

④こいはうんまかど。たもっみやんせ。

ことばの地域差

→みなさんの地域では、どのように表現しますか？

3. ことばの地域差

- ・地域方言の歴史

標準語の普及 ⇔ 地域方言の排斥

- ・地域方言=母語

- ・母語 ➡ アイデンティティの形成

自分のことばと相手の言葉の両方を尊重する姿勢



日本語学習者に対する姿勢

ことばの男女差、世代差、地域差 と 日本語教育



課題3

あなたの友人の留学生(20代女性・中国人)が、近くのコンビニでアルバイトを始めることになりました。その留学生は日本語が上手ですが、アルバイトをするのは初めてです。アルバイト先の同僚やお客さんとうまくコミュニケーションをするためにアドバイスをするとしたら、どんな情報が役に立つと思いますか。社会方言、地域方言などの観点から考えて、周りの人やグループで話し合ってみましょう。



ヒント

- コンビニでいっしょに働く人はどんな人たちですか。
- コンビニにはどんなお客さんが来ますか。
- コンビニでは誰と、どんなコミュニケーションがおこなわれていますか。
- コンビニではどんなことばが使われていますか。

同僚であっても先輩か後輩かによって使う表現が違うかもしれません。また、地域方言を使う地域なら、お客さんが使う地域方言が理解できないと仕事がスムーズに進まないかもしれません。いろいろな場面や相手を想定してみてください。

4. 相手によって話し方を変える

日本語のバリエーション = 相手に合わせた言語的調整

⑤これはおいしいですよ。食べてみませんか。

やさしい日本語

4. 相手によって話し方を変える

アコモデーション理論

- ・相手を理解したい、相手に理解してもらいたい
 - ➡自分の話し方を相手の話し方に近づける
例) ベイビートーク、フォリナートーク
- ・相手と距離を置きたい
 - ➡相手と違う話し方をする

4. 相手によって話し方を変える

フォリナートーク = 非母語話者に対する言語的調整



やさしい日本語

日本語のバリエーション = 相手に合わせた言語的調整
外国人の増加 ➡ 日本語のバリエーションの増加

本書からのメッセージ

以上、本書では、音声、文字、語彙、文法、談話、社会というように、小さな単位から徐々に大きな単位へと対象を広げつつ、さまざまな角度から日本語について考えてきました。それぞれの分野の基礎的な知識はもちろん日本語を教えるうえで有用ですが、もっと大切にしたいことは、課題を通して体験したように、表現に向き合い、考えてみる姿勢です。日本語は多様で、そして、変化しています。本書を通して学んだことを出発点に、つぎはぜひ皆さん自身で、身の回りの日本語の何気ない表現に目をとめたり、日本語学習者の疑問を一緒に考えてみたりしてください。